

## キー・コンピテンシーズとその前提条件を考える

- OECD、PISA 調査を活用しよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

## 1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

2. (1) パリに本部のある世界最大の研究所、シンクタンクの OECD(経済協力開発機構)という国際機関では、いろいろな国々の代表が集まりこれからの世界をどうしたらよいかを考えています。

(2) その OECD から国際標準の学力とは何か、どのようにしてその学力を身につければよいのかという調査結果が、PISA 調査(15 歳時の国際学習到達度調査という形で 2000 年から 3 年ごとに調査)をもとに順次発表されています。

(3) その PISA 調査では、国際的な視点から見て鍵となる大切な学力とは何かを 3 つにまとめましたので、今日はその 3 つを御紹介したく思います。

(4) まず第 1 は、知識・情報・技術を相互作用的に用いる能力です。

(5) 2 つめは、多様な集団で交流する能力です。

(6) 3 つめが、自律的に活動する能力です。

(7) これら 3 つの能力が、これからの社会では自分の人生を成功に導くことができ、また、正常に機能する社会を形成するために大切な能力、学力と OECD は考えました。

(8) その実態調査として行っているのが、2000 年以来、3 年ごとに行っている PISA 調査であると私は考えます。

(9) この 3 つの鍵となる大切な能力、学力であるキー・コンピテンシーズの前提条件として、OECD は学び方を学ぶ能力と読書による思慮深さの 2 つをあげています。

(10)能力、学力の高い人は、学び方を学ぶ能力を身につけていると同時に、読書による思慮深さを身につけているとの調査結果は、やはりそうかと肯首せざるをえませんね。

### 3. おわりに

(1)世界最大の研究所、シンクタンクの OECD の行っている 15 歳時の国際学習到達度調査の成果を活用し、何がこれから求められる学力、能力なのか、その条件とは何かを考えたく思います。

(2)世界のシンクタンクの調査・研究成果をどんどん自分の生活の中に活用することがこれからは大切な生き方であると私は考えます。

皆様はどうお考えですか。

- 2011 年 6 月 30 日 -